



へき地教育の意識転換に関する調査結果

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学へき地教育研究センター 公開日: 2010-03-21 キーワード: 作成者: 川前, あゆみ メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00009871

へき地教育の意識転換に関する調査結果

川 前 あゆみ
(北海道教育大学釧路校)

Result of Questionnaires about Change of Consciousness of Rural Education

Ayumi KAWAMAE

資料解説

本資料は、北海道教育大学釧路校の2006年度新入生に行ったへき地教育の意識とそのイメージ転換に関する意識調査結果である。元々新入生は潜在的にはへき地教育に関してなじみが少なく、また必ずしも良いイメージがあるわけではない。そのイメージを別の価値基準で意味転換を図るパラダイムの転換を行う必要がある。

本調査の目的は、そのようなへき地のイメージを転換するために、最初に学生のへき地のマイナスイメージを抽出して、そのイメージを別な意味合いで転換できるとしたらどのような意味づけが考えられるかを出してもらった。大まかな分類は、大項目Ⅰ「生活面・暮らし」、大項目Ⅱ「地域の間関係・子どもたちの人間関係」、大項目Ⅲ「学校教育の指導上」に分けた。それを各学生にとって価値転換の論理付けになるかどうかを全141項目について再度5段階で評価してもらった。本調査結果は、単純集計により、評価「5」の多い順に並べたものである。これを見ると、学生がどのような基準でへき地を再評価するのかを読み取ることができる。

調査は、北海道教育大学釧路校の「へき地教育論」受講者200名を対象に行い、集計はすべて川前が行った。今後本集計データを元に加工するが、ここではとりあえず単純集計だけを示しておく。

※回答者200人の比率(%)を示す。

通 番	大 項 目			5 き る と 思 つ 	4 換 で き る と 思 つ 	3 普 通	2 思 つ 	1 あ ま り 発 想 を 転 換 で き な い と 思 つ 	0 不 明 ・ 無 記 入
		へき地のマイナスイメージをとらえてみると	→ あえてマイナスイメージを正反対に評価してみると						
43	I	お金がかかる。	→ 親が頑張る。	3.0	3.5	18.0	35.5	38.5	1.5
44	II	地域行事が多い。	→ 地域のコミュニケーションが多く取れる。	54.0	29.0	13.0	2.5	1.0	0.5
45	II	公園など遊ぶ場がない。	→ 山や川などで探検できる。	50.0	37.0	9.5	2.5	0.5	0.5
46	II	家族での行動が多い。	→ 家族でのコミュニケーションが増える。	44.5	39.0	13.0	3.0	0.5	0.0
47	II	学校の生徒数が少ない。	→ 全校規模で仲が良い。学校独特の行事ができる。	43.5	35.5	16.5	3.0	1.0	0.5
48	II	悪いことをすると近所の人にすぐ怒られる。	→ 地域社会でも教育が試されるのでしっかりした子になる。	43.5	31.0	15.0	8.0	2.0	0.5
49	II	一人ひとりの役割が多くなる。	→ 様々な体験や経験ができ、責任感も身につく。	42.5	33.0	13.5	2.5	0.5	8.0
50	II	地域の結束が固すぎる。	→ 困ったときに助けてもらえる。	37.5	32.5	23.0	5.0	1.5	0.5
51	II	子どもが少なく、友達も少なくなる。	→ 強い絆が生まれる。親友が多い。	31.5	39.5	23.5	5.5	0.0	0.0
52	II	多くの人と関わる機会が少なく視野が狭くなる。人間関係の幅が狭い。人間関係が広がらない。人間関係が固定化される。	→ 濃密な関係を築く事ができる。親密な関係をつくる。	30.5	42.0	19.0	8.0	0.5	0.0
53	II	同じ顔触れでしか活動しない。	→ 仲間意識が強くなる。団結力が高まる。	27.5	34.0	30.5	7.0	1.0	0.0
54	II	クラス替えがない。	→ 新学期でも不安なく迎えることができる。	27.5	31.5	23.5	13.5	3.0	1.0
55	II	友人が選べない。	→ 性格の合わない人とも仲良くしようとする。	26.5	36.5	23.0	12.0	2.0	0.0
56	II	高齢者が多い。	→ 学校の施設を使つてのゲートボール大会や収穫祭などで世代の隔たりなく児童と関わりあっている。	26.0	42.5	25.5	4.5	1.5	0.0
57	II	協調性を育むのが難しい。	→ 広い視野で考えてみると、子ども・先生・地域の方と団結を生み、都市部とは違った協調性を育める。	25.0	33.0	30.0	8.0	2.0	2.0
58	II	過疎化。若い人が少ない。	→ 地域の年配の人との関わりも増え、生きる知恵・昔の知恵が継承される。コミュニティのつながりが強い。村の行事に参加することが多い。地域がまとまる。	24.0	42.5	21.5	8.5	3.5	0.0
59	II	どこの誰が何をしたかがすぐに分かっってしまう。	→ 皆がモラルを守って恥じない行動をするようになる。	23.5	30.5	32.0	12.0	2.0	0.0
60	II	郊外へ出ることが少ない。	→ 地域を大切にすることが育つ。	22.5	28.0	32.0	14.5	2.5	0.5
61	II	同学年がいけないことにより、子どもの人間関係を築く能力が養われない。	→ 教師と1対1で授業を行うことができ、分からないところも解決できる。面倒見が良くなる。	20.0	40.5	30.0	7.5	2.0	0.0
62	II	上下関係の礼儀がない。	→ 先輩・後輩の仲がよい。親しみやすい。先輩の意見を素直に聞ける。	20.0	38.5	27.0	11.0	3.5	0.0
63	II	高校などに進学したときにとけこみにくい。	→ 狭い中での人間関係と、広い中での人間関係の両方を学べる。辛い状況を良い方向に転換させる力がつく。	18.5	40.0	26.5	14.0	0.5	0.5
64	II	友人間でのトラブルが起きやすい。	→ 実体験としてのコミュニケーションを学べる。人数が少ないためにトラブルを発見しやすく、解決しやすい。	18.5	35.5	32.0	11.0	2.5	0.5

※回答者200人の比率(%)を示す。

通番	大項目			5 き 5 発 想 を 転 換 で き る と 思 う	4 少 し 発 想 を 転 換 で き る と 思 う	3 普 通	2 あ ま り 発 想 を 転 換 で き な い と 思 う	1 き な い と 思 う	0 不 明 ・ 無 記 入	
		へき地のマイナスイメージをとらえてみると	→	あえてマイナスイメージを正反対に評価してみると						
65	II	親や地域の人の職業が同じ。	→	自分が将来つきたい職業について自分で調べるので調べる力、目標を設定する力がつく。困ったときは助け合える。	18.0	36.0	30.5	14.0	1.5	0.0
66	II	外からの新しい刺激があまりない。	→	自分たちで作り出すことができる。	17.5	28.0	31.0	20.5	3.0	0.0
67	II	社会性・社交性が身につかない。	→	一人ひとりの絆が深まる。	17.0	25.0	30.5	22.5	5.0	0.0
68	II	自己主張が激しい。	→	個性があって良い。自分の言いたいことを言える。	16.5	34.0	27.5	18.5	2.5	1.0
69	II	集団性が強くなりすぎる。	→	団結力が強くなる。	16.0	29.0	31.5	19.0	4.0	0.5
70	II	新しい環境に馴染みづらい。	→	郷土愛が強い。	16.0	28.5	34.0	16.0	4.0	1.5
71	II	噂が広まりやすい。地域のつながりが強く、情報がすぐに伝わってしまう。	→	情報が早く伝わる。良い情報は、喜びを共有できる。	15.5	36.5	30.5	12.5	4.5	0.5
72	II	家に鍵をかけない。	→	地域の人との関わりが多いので安全。	15.5	20.5	26.5	22.5	15.0	0.0
73	II	プライバシーがない。	→	身内感覚でいられる。小さな変化でその人の異常を知ることができる。	13.5	35.0	29.0	19.0	3.5	0.0
74	II	社会が小さい。	→	地域でそれぞれ何をしているか知っている。	12.5	33.5	31.0	17.5	4.5	1.0
75	II	プライバシーを守りづらい。	→	交流が活発になる。何でも言い合える。	12.5	30.5	36.0	18.0	3.0	0.0
76	II	喧嘩をすると他に居場所がない。	→	すぐ仲良くなれる。	11.5	26.0	31.5	24.5	6.0	0.5
77	II	すぐに他者と比較される。	→	向上心が高まる。	11.5	23.5	30.5	27.0	7.5	0.0
78	II	ライバルがない。	→	自分のペースでやれる。	10.5	26.0	28.5	27.0	8.0	0.0
79	II	情報が少ない。	→	情報に流されない。	10.5	23.0	41.5	18.0	7.0	0.0
80	II	いじめが深刻になりやすい。	→	教師の質が上がる。	10.0	18.5	30.0	26.5	14.5	0.5
81	II	女の子が少ない。好きな子ができたらバレーやすい。	→	プレイボーイが少ない。お金がかからない。周囲が協力してくれる。	10.0	9.0	39.5	25.5	15.0	1.0
82	II	礼儀が省かれる。	→	仲が良い証。	9.0	16.0	34.5	29.5	11.0	0.0
83	II	習い事が少ない。	→	勉強に集中できる。	8.5	19.5	38.5	28.0	5.5	0.0
84	II	親同士の仲の悪さが子どもにも影響してしまう。	→	子ども自身が問題を解決しようとする。	7.5	17.0	32.5	31.0	11.5	0.5
85	II	言葉が通じにくい可能性がある。	→	いろいろな文化に触れることができる。	7.0	22.5	32.5	28.0	9.5	0.5
86	II	人が変わらないから、いじめられていた子どもは立ち直りにくい。	→	加齢になるにつれて他人のことを考えられるようになり、人間的に成長できる。	7.0	21.5	34.0	27.5	10.0	0.0
87	II	常に監視されている。	→	素直に育つ。	6.0	13.0	27.0	36.5	17.0	0.5
88	II	近所が遠い。	→	治安が良い。	6.0	10.5	34.0	33.0	15.5	1.0
89	II	閉鎖的。	→	防犯。	5.5	18.5	34.0	28.0	13.5	0.5
90	II	人見知りするようになる。	→	悪い環境に入っていない。	5.0	14.5	35.5	31.5	13.0	0.5
91	II	よそ者に冷たそう。	→	仲間意識が強い。	4.5	9.5	42.0	28.0	13.5	2.5

※回答者200人の比率(%)を示す。

通 番	大 項 目			5 き と 思 つ 換 で	4 少 し 発 想 を 転 換 で き る と 思 つ	3 普 通	2 あ ま り 発 想 を 転 換 で き な い と 思 つ	1 発 想 を 転 換 で き な い と 思 つ	0 不 明 ・ 無 記 入	
		へき地のマイナスイメージをとらえてみると	→	あえてマイナスイメージを正反対に評価してみると						
116	Ⅲ	情報機器の操作指導があまり行われない。	→	アウトドア学習が増える。	22.0	30.0	29.5	14.5	4.0	0.0
117	Ⅲ	周囲の学校と相対的評価をしにくい。	→	クラス単位ではなく個人単位で見ることができる。	21.0	35.5	32.0	9.5	1.5	0.5
118	Ⅲ	学習環境が都市部と格差がある。	→	勉強に追われない。教材に工夫が生まれる。実験などの機会が増える。自然環境を教材にできる。	19.0	42.5	25.5	11.0	2.0	0.0
119	Ⅲ	受験勉強など深く勉強できない。受験勉強が大変。塾がない。	→	一人ひとりに丁寧に教えられ、自分にあった勉強をすることができる。自分で学ぶようになる。	19.0	37.5	28.5	11.0	4.0	0.0
120	Ⅲ	遠いので社会見学があまりできない。	→	地域に目を向けることが多くなるので、地域への理解が深まる。	17.5	38.0	28.5	12.5	3.5	0.0
121	Ⅲ	学校外の学習施設が乏しい。	→	自ら学習しようとする姿勢が身につく。学校での授業に集中する。	17.5	32.0	34.5	13.0	3.0	0.0
122	Ⅲ	教材が古そう。	→	物を大切に使う。	17.0	30.0	33.5	16.5	2.5	0.5
123	Ⅲ	人数が少ないためクラス替えがない。	→	気が楽。	17.0	27.5	32.0	20.5	3.0	0.0
124	Ⅲ	学力に見合った高校・大学がない。	→	自立して自分の考えを持つことができる。明確な目標設定ができる。	14.5	22.0	28.5	23.5	10.5	1.0
125	Ⅲ	1時間の指導内容が薄い。	→	基礎を重視することができる。	14.0	32.5	32.5	17.5	3.5	0.0
126	Ⅲ	学校から病院が遠くて万一のときに困る。	→	先生のとっさの判断力と応急処置の力がつく。	14.0	24.0	28.0	22.5	11.5	0.0
127	Ⅲ	遊びと勉強の線引きが難しい。	→	教師と生徒の関係が深くなる。	14.0	23.0	38.5	19.0	4.5	1.0
128	Ⅲ	自分で調べる環境が少ない。	→	学校の行事や企画が様々あり、遊びや学びの機会が充実している。	13.0	32.0	35.5	16.5	2.5	0.5
129	Ⅲ	学校統廃合が進んでいる。	→	友達が増える。	13.0	28.0	39.0	12.5	7.5	0.0
130	Ⅲ	実験で比較が難しい。	→	実験を何度もでき、理解が深まる。	12.5	30.5	31.0	19.0	6.5	0.5
131	Ⅲ	へき地校のコンプレックス。	→	へき地教育のプラス面が出てくる。	12.5	25.0	32.5	23.0	6.5	0.5
132	Ⅲ	競争心がない。	→	心にゆとりが生まれる。勝ち負けにこだわらない。協調性が生まれる。穏やかな伸び伸びとした子どもに成長する。	12.0	35.0	32.5	15.5	5.0	0.0
133	Ⅲ	社会や都会のイメージがつかみにくい。	→	パソコンを使えば知れるし、パソコンも使えるようになる。	11.5	25.5	33.0	22.5	7.0	0.5
134	Ⅲ	少人数から大人数の環境になったときにストレスになる。	→	自分の意見を常に持ち、周囲に流されずに行動したりする力を持つ。	9.5	32.5	37.0	18.0	3.0	0.0
135	Ⅲ	好きな部活ができない。	→	人数が少ないため一人ひとりの意見が反映されやすい。	9.5	17.0	32.5	31.0	9.0	1.0
136	Ⅲ	教育レベルの低さ。	→	学力の高い子どもはゆとりができ、低い子どもはついていきやすい授業になる。	9.0	26.0	33.5	22.5	8.5	0.5
137	Ⅲ	情報化社会に取り残される。	→	情報に頼らない。情報に流されない。	9.0	22.0	37.5	25.0	6.5	0.0
138	Ⅲ	進路の幅が狭い。	→	同じ友人との人間関係が深まる。	8.0	20.5	30.5	29.0	11.5	0.5
139	Ⅲ	人数が少ないため多様な意見が出ない。	→	仲間割れや意見の食い違いが少ない。	6.0	20.5	34.0	33.5	5.5	0.5
140	Ⅲ	体育の種目が限られる。	→	得意な種目ができる。	6.0	20.0	30.0	37.0	7.0	0.0
141	Ⅲ	他校との交わりが少ない。	→	他校との喧嘩が少ない。その学校の伝統が守られる。	3.5	21.5	37.0	31.0	7.0	0.0